

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.63  
2018. March

発行者 琉球病院事務部長  
有岡 雅之

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 琉球セミナー

#### 「アルコール依存症臨床研究開始に関して」を開催して

精神科医師 栗原 雄大

平成30年2月16日、琉球大学精神病態医学講座教授、近藤毅先生をお招きして、琉球セミナーを開催いたしました。

今回は琉球病院というアルコール依存症患者が集まる臨床フィールドと、琉球大学の学術的な側面が協力していく、共同研究となっております。

研究の内容は、「気質」「飲酒行動パターン」「脳機能」「気分障害」など、全国的に主流な観点とは少し違った角度からデータを蓄積し、個別性の治療に関して模索する研究となっております。

このようなニッチ(隙間)の領域は、まさにこれまで琉球病院が得意とし、成長を遂げてきたものだと考えております。

アルコール医療が患者様のより近いところで展開され、より早期に適切な医療に繋がることを目指すことを目標とし、取り組ませていただきます。

この度は遅くの時間にも関わらず、多くの方々に参加して頂き、誠にありがとうございました。



### 「アルコール健康障害への早期介入と総合病院との連携」

精神科医師 手塚 幸雄

アルコール依存症により過量飲酒となった方の多くは、何らかのきっかけで総合病院での治療を受けます。しかし、そのうち専門医療機関での依存症治療につながる方はごく一部であり、病院間の連携が重要となります。また、依存症の手前の段階で積極的に予防的介入を行うことにより、依存症を含めたアルコール健康障害を未然に防ぐこともできます。

現在、県立中部病院で当院スタッフによるアルコール相談外来を月に2回開催させていただいており、連携に努めています。しかし、一度帰宅した方が予約を取って別の日にもう一度受診することはハードルが高く、予約をしたものの実際には来院されない方が半数を超えます。平成30年度は県立中部病院で外来だけでなく病棟に出向き、身体科主治医と協力して入院患者さんへもアプローチする、積極的な連携を計画しています。



### 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、  
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、  
琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年  
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、  
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。



### 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

### 病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期  
ユニット 4床
- ・重症心身  
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



- アクセス
- 路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「7番名護東線」浜田バス下車徒歩3分
- 自動車/那覇市から40分  
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

### トピックス

#### 行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成 ..... 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成 ..... 平成29年2月
- 新病棟(第2期工事) 完成予定 ..... 平成30年10月

#### 教育・研修

- 第40回九州地区重症心身障害研究会
- 日時：平成30年3月10日(土) 9:40~16:30 会長：福治 康秀
- 場所：沖縄県男女参画センター「ていえる」

### 地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの問い合わせ窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめアルコール依存症、治療抵抗性統合失調症治療薬のクロザピン治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患に対応しております。地域のニーズにお応えできるよう日々努力していきたいと思っております。受診のご相談はお気軽に地域連携室までお問合せ下さい。



2月27日現在

精神科病棟  
2床

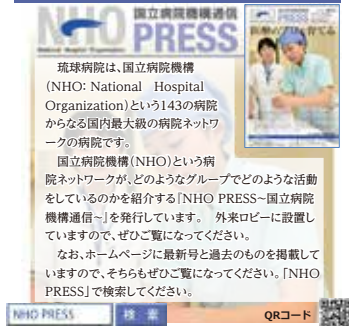
認知症  
15床

アルコール  
2床

児童思春期ユニット  
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

### NHO PRESS~国立病院機構通信~について



お問い合わせ時間  
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)  
TEL: 098-968-2133 (代)  
内線: 231・234  
地域医療連携室(直通)  
TEL: 098-968-3550  
FAX: 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は225例になりました。平成30年1月のCLZ導入は1例で、全て他の病院からのご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成30年1月の治療実績はありませんでした。

## こども心療科

県から受託している「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、去る2月12日に東京学芸大学教授の大河原美以先生をお招きし、「感情コントロールできない子への理解と援助」というテーマで講演会を開催しました。精神科、小児科、児童相談所、保健所等、多くの機関から定員を大幅に超える申込みがあり、このテーマに関するニーズの高さが感じられました。

研修会では、感情コントロールの力が育つプロセスにおいて、脳内ではどのようなことが起きているのか。「常識的な関わり」が悪循環を招くという、これまで一般的に当たり前とされてきた関わりの問題点や、感情をコントロールする力を育むための関わりポイントについて、科学的な根拠に基づきながら、多くの実践例を交えてわかりやすく解説頂きました。

受講者の研修会に対する満足度は非常に高く、今後の支援に役立つという声を多く頂きました。加えて、「自分の子育てを振り返る機会になった」「今日から自分の子どもに実践したい」等、支援者としてだけではなく、親として自身の子育てを考える機会になったという声も多く聞かれ、人間の本質について理解が深まる研修会になったのではないかと思います。

今後も、このような研修会を開催して、子どもたちの健やかな育ちを支える環境づくりに努めていきたいと考えています。

## 認知症医療

認知症疾患治療病棟 ～私たちは患者様、御家族の視点に立ち暖かく思いやりのある医療を提供します～

今回、認知症疾患治療病棟における診断方法や治療、臨床心理士・作業療法士による専門的な治療・リハビリテーションを病棟パンフレットとして作成いたしました。病棟行事や作業療法風景なども盛り込んでおり病棟の雰囲気が伝わればと思います。配布等も可能ですのでご希望の方はご連絡お待ちしております。

## 重症心身障がい医療

西I,II病棟では2月21日～23日にかけて個別面談を実施しました。多くのご家族や成年後見人の皆様にご協力頂き感謝致します。個別支援計画作成では利用者のより豊かな生活に向けて、ご家族、成年後見人、多職種による検討を行います。利用者の思いを汲み取る事や意思を尊重した支援が重要となります。入院が長期化するなかで高齢化、身体状況の変化もみられます。利用者の特性に応じた支援が提供できるよう、ケアの方法や多職種連携により療育の充実に取り組みます。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では1月末現在、外来通院の患者様75名、入院中の患者様22名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診相談して下さい。

## 包括的地域精神医療

平成30年1月の訪問看護利用者数は、677件ありました。月別平均では35件の訪問看護の展開となりました。訪問看護では、日々の生活を注意深く観察する中で現在出来ていることと、支援が必要な部分をあきらかにし利用者様の良いところや出来ているところに着眼し、利用者様が自尊心を高めていけるように一緒に考えていきます。

桜の開花も終わり、寒さも和らぎ春の訪れでコスモスの花が畑一面に咲き誇り、山原では新緑が芽吹き訪問先の庭にはミカンがたわわに実り四季の躍動感を感じています。そのような中、訪問看護車は利用者様の下へ向かいます。

## 臨床研究部活動状況

『アルコール依存症臨床研究開始に関して～うつ病やアルコール依存症の個別性治療戦略』

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座教授 近藤毅 先生

琉球病院 医師 栗原雄大 先生

平成30年2月16日に開催しました第53回琉球セミナーについてご報告いたします。セミナーでは、琉球大学医学研究科精神病態医学講座 教授

近藤毅先生をお招きし、「治療の個性化を目指すには?」というテーマで、既存の標準的治療の乗りにくい、または効果が認められない患者様に対するアプローチ、病前性格と介入方法の違いについて御講演いただきました。栗原先生からは、アルコール依存症の患者様の個別性の評価と予後調査に関する研究について御講演いただきました。既存の標準的治療では効果が認められなかった患者様に役立つ治療の開発につながる事が期待されます。

